No. 55
December 2014
徳島県立博物館友の会会報
アワーミュージアム
第 55 号　2014 年 12 月 25 日発行
Tokushima Prefectural Museum

本山彦一と鳥居龍蔵の交流

石尾　和仁（友の会会員）

鳥居龍蔵は、日本人の起源を追究する中で、縄文土器を使用するアイヌにかわって、朝鮮半島を経由して列島に到来した固有日本人が、インドシナ系の民族などとも混交しながら、日本人の祖先が形成されたとする学説を提唱しました。この研究の陰には、本山彦一の存在を看過することができません。

本山彦一は５代目の大阪毎日新聞社社長に就任する人物です。1853（嘉永６）年８月 10 日に熊本県で生まれ、慶應義塾に学んだ後、政府の租税寮や兵庫県庁に勤務し、1882（明治 15）年に大阪新報社に転じました。その翌年、福沢諭吉の招きで時事新報社に入り、1889（明治 22）年には大阪毎日新聞社相談役を兼務、そして 1903（明治 36）年には社長に就任しました。殖産興業や皇陵巡拝運動の推進に尽力するとともに、幅広い学術振興のための支援を行ったことでも知られています。

この本山彦一と鳥居龍蔵の交流は、1914（大正３）年には始まっていたようです。本山彦一は次のような思い出話を語っています。

> 大正三年頃、汽車中で鳥居博士に邂逅し、偶々博士が朝鮮においてその調査をなしつつありと聞き、研究費を支出して、新聞原稿を依頼したことがある。（故本山社長伝記編纂委員会 1937）

1910（明治 43）年から朝鮮総督府の委嘱を受けて、石器時代遺跡の調査に着手していた鳥居龍蔵に対して関わりをもったことがうかがわれる一文です。

その後、鳥居龍蔵と本山彦一の交流は、1918（大正７）年の畿内調査で本格的なものとなります。その契機について、鳥居は自叙伝『ある老学徒の手記』（以下、「手記」）のなかで次のように語っています。

> 本山さんの国府の発掘以前における大和、河内、和泉等の先史時代等の研究について面白い話がある。初め私どもの恩師の坪井正五郎先生に、「大阪毎日新聞」新年号に何か書いて貰ひたいと依頼せられ、先生は畿内地方に石器時代の遺蹟なしといふ意味のことを書いたところ、本山さんは憤慨して、資料が足らないからだといはれた。さうして私に『坪井さんの説は腑におちない、調べて見ようぢゃないか』と、大正六年頃「大毎」の岩井君と、三人で行脚して、大和、河内、摂津、和泉等を調査したことがある。その結果、我々祖先の遺蹟即ち弥生式土器系の遺蹟を発見した。これ実に本山さんの研究の結果といはねばならぬ。

この時の畿内調査は本山彦一と行動を共にしているが、鳥居も、「本山毎日新聞社長から種々の便宜と補助とをお与え下さいましたので今度の調査事業の大部分は全く本山社長の賜でありますからこの事をここに明らかに申して置きます」と『有史以前

大阪府国府遺跡の鳥居と本山 (右端が鳥居、その隣が本山)
（徳島県立鳥居龍蔵記念博物館蔵）

の日本』で述べています。また、同書の巻頭では、「謹みて本書を本山彦一大人に捧ぐ」と記していることからも、本山彦一と鳥居の関わりは相当緊密なものがあったことがわかります。『大阪毎日新聞』には調査の動向が詳細に報告されています。長文になりますが、畿内調査の第一報である7月21日の記事を紹介しておきましょう。

> 近畿地方は我大和民族発祥の地として我祖先先史時代の遺蹟に富むと同時に又一方大和民族発展以前即ち先史時代（石器時代）の遺物遺蹟にも乏しからず、而も同時代の遺蹟研究は先住民と大和民族の接触或は両時代の文化の交渉等に関する興味ある問題にして之が闡明は日本文化史上一大効果を齎すべきものなることを疑はず、然るに近畿地方原史時代の史蹟に関しては古くより幾多の学者識者によりて殆ど余蘊なき迄に調査討究さるゝ所なるも石器時代の遺蹟に至りては其存在すら極めて最近に於て紹介されたるに過ぎず況んや実地調査の如き去月京都大学考古学教室が河内国府附近に於てなしたるに止まり未だ必ずしも十分なる調査を経たるものあらざることは斯学上頗る遺憾というべし
>
> 東京帝国大学理科大学講師鳥居龍蔵氏茲に見るところありて今夏休暇を利用し我近畿地方に於ける主として石器時代遺蹟につき（古墳墓其他一般史蹟の調査を含まず）学術的の調査を企画し左記日程を以て実行せんとせらるゝあり、我社幸に氏の同意を得、社員岩井武俊氏同行相共に調査研究をなすべく、地方史蹟闡明の一端に資せんとす、鳥居氏は我先史時代研究の権威にして調査の結果は必ずや学術上貢献するところあるべく我社亦時々右調査記事を載せて読者の一粲に供するところあるべし、地方有志家幸に地方史蹟顕彰の意味を以て調査上便宜を寄与されんことを希望す、日程大要左の如し

この記事に続いて、調査行程が記されていますが省略しておきます。

きみ子宛の書簡
（徳島県立鳥居龍蔵記念博物館蔵）

その他、鳥居龍蔵は1920（大正９）年夏に福島県猪苗代町であった夏期大学講座で講演をしていますが、その後、新潟県に赴き、佐渡島にも渡りました。その際も新潟で本山彦一と合流し、ともに「大野屋支店」に投宿、翌日から佐渡島の調査をしました。「私は本山社長と共に八月十七日、佐渡が島に渡って、有史以前の跡を尋ねんと思いまして、午前六時半の汽船で新潟を発し、同島に向かいました」、「八月十九日、早朝本山社長と共に小木附近採集の遺物を見、午前八時此処出て、海岸から小舟を浮かべ、佐渡の最南端の岬角に向かいました」と記していますように（鳥居 1925）、本山彦一とともに佐渡島の有史以前遺跡の調査をしています。なお、この時の新潟で落ち合う約束をしたことを記した妻きみ子宛ての葉書が、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館に収蔵されています。

また、鳥居は1922（大正11）年に助教授に昇任した際にも、本山彦一に宛てて書簡を出しています（天羽 1993）。その書簡には、書庫建設に関わることや坪井正五郎の後任として人類学教室の主任に就いたことなどが記されています。

ところで、関西大学博物館に寄贈された本山コレクションのなかには、鳥居龍蔵から寄贈あるいは買い取ったと推測される資料もあります。例えば、徳島市の城山貝塚出土資料などはその可能性をうかがわせるものです（関西大学博物館 2010）。

鳥居龍蔵は、この時の畿内調査を通して学問認識を転換させることになりました。「手記」でも、「私達は河内、大和、和泉等の畿内を探査した結果、大いに驚かされたことは、弥生式土器が到る所に存在し、それに石器を伴うことである。これによって考察すれば、弥生式系のものも、まさしく石器時代の民族であることが認められた」と記しているように、鳥居が提唱していく「固有日本人」論の骨組みを形

書斎の鳥居龍蔵（川内村史より）

づくる調査であったと言えます。その調査活動に本山彦一は深く関与していたのです。

（参考文献）
天羽利夫 1993「鳥居龍蔵の生い立ちと国内調査」『徳島の生んだ先覚者　鳥居龍蔵の見たアジア』徳島県立博物館
関西大学博物館 2010『関西大学博物館蔵　本山彦一蒐集資料目録』
故本山社長伝記編纂委員会 1937『松陰本山彦一翁』大阪毎日新聞社
鳥居龍蔵 1925『有史以前の跡を尋ねて』雄山閣（後に全集 3 に所収）
鳥居龍蔵 1953『ある老学徒の手記』朝日新聞社（後に全集 1 に所収）

（友の会会員）

友の会行事報告

伊島を歩こう

○**日　時**　6 月 7 日（土）
○**場　所**　阿南市伊島
○**担　当**　行成正昭（友の会役員）
磯本宏紀（博物館学芸員）
鉄谷雅史（博物館主任）
○**参加者**　22 名

前日は雨が降っていて、当日の降水確率は 40%、曇時々雨という予報でした。参加者の皆様もさぞ気を揉まれたことと拝察いたします。結局、雲量や波高のデータを検討し、予定通り実施することにしました。当日は、梅雨期とは思えないほどの快晴となりました。道中には、ササユリの香りが辺り一面に広がり、沖にいる漁師が、伊島から漂うササユリの香りを灯台代わりにしていたことを実感しました。

今年度最初の行事でしたが、順調なスタートをきることができました。　（鉄谷雅史：博物館主任）

ひとこと

●南部洋子さん

梅雨の晴れ間、波も非常に穏やかな一日、答島港より船で 30 分、四国最東端にある伊島を歩いた。お目当ての一つであるササユリがタイミングよく見頃を迎え、島内のあちらこちらに群生する、淡いピンク色の可憐な花を存分に楽しむことができた。また、西国三十三カ所のミニ霊場をたどり、アップダウンのある山道を歩いて相当疲れたが、観音堂、通夜堂、湿地と見どころはたくさんあった。

以前に博物館でお世話になり、現在は伊島中学校で校長をお務めの坂本先生が伊島港で出迎えてくれ、とても懐かしかった。

●福田由美子さん

伊島の自然を満喫でき、私自身はとても楽しかった。ただ、これほど長時間、しかも急斜面の登山があるとは思っていなかったので、歩き慣れていない人にとっては、かなり辛かったのではないかと思う。伊島に暮らす人たちともっと話をしたかった。伊島の方々とふれ合いたかった。島の暮らしには興味がある。

普段、たくさんのものに囲まれ、慌ただしく過ごしている私にとって、今回の島歩きは心洗われる貴重な体験になった。

●阿部萬里子さん

大変お世話になりました。久しぶりの遠足気分で参加させていただきましたが、体力的な衰えを痛感いたしました。
苦しかったけれど、絶景や控えめに咲いていたササユリ、三十三観音巡りと、みんな心に残るひとときを過ごさせていただき、感動いたしました。企画をしてくださった皆様、ありがとうございました。

体を鍛え、迷惑をかけないようにして、今後も積極的に行事に参加したいと思います。気分はスカッとしましたよ !!

●新浜響子さん

個人的には、蚊に囲まれて困ったので、蚊取り線香を持参し、用心して登るべきだったと思いました。伊島の風土記の解説を聞きながら歩いていくこと

で、一昔前の暮らしを想像し、思ったことを話しながら島巡りができました。

知るということは、一日でえらくなったような気がします。

●山形久子さん

初めて参加させていただきました。前日から子どもの遠足みたいにワクワクしながら船に乗りました。

ササユリは本当に綺麗でした。甘い匂いがする可憐な花を見ながら、頂上近くから眺めた紀伊水道は素晴らしかったです。

いつも運動不足の自分にとって、坂道は少々きついときもありましたが、いい思い出ができてよかったです。

ササユリ

友の会行事報告

草や木の実でジャム作り

○**日　時**　6 月 22 日（日）13:00 ～ 17:00

○**場　所**　博物館実習室

○**担　当**　大杉洋子・伊勢ひとみ
松家京子（友の会役員）
小川　誠（博物館学芸員）
鉄谷雅史（博物館主任）

○**参加者**　27 名

梅雨の時期ということもあり、当日は雨が心配されましたが、幸いにも雨は上がり、予定通り野外でヤマモモの実を採取することができました。実習室に戻ると、アンズ、イチゴ、キイチゴ、グミ、クワ、ビワの実が既に用意されていて、参加者の皆様は、それぞれのお好みに応じて実を選びました。そのままの味では酸味が強いので、砂糖を混ぜながら実を煮詰めました。やがて、実の形が見えなくなって、とろみが出てきたらジャムの完成です。試食では、ヨーグルトに入れたり、クレープに生クリームと一緒に塗るなどして、自然の豊かな味を楽しみました。

（鉄谷雅史：博物館主任）

めもに

●南部洋子さん

親子連れの参加がたくさんあり、にぎやかな実習となりました。まずは、文化の森公園内でちょうど色づいたヤマモモを収穫し、熱湯でさっとゆがいた後、ざるに入れてしゃもじで裏ごしすると、果肉と種子を簡単に分けることができました。そして、砂糖を混ぜて火にかけ、コトコト煮詰めるとジャムの完成です。

ヤマモモ以外にも、アンズ、イチゴ、キイチゴ、グミ、クワ、ビワが用意されていて、それぞれお好みの果実でジャム作りを楽しみました。一番人気はヤマモモで、鮮やかな赤と爽やかな初夏の味、二番人気は珍しいクワでした。

●有井智紀さん

ぼくは、ジャムを作るのがはじめてなので、とても楽しみでした。クワの実は見たことも食べたこともなかったけれど、ジャムはとてもおいしかったです。アンズもイチゴも作ることができてよかったです。どうもありがとうございました。

●小方心優さん

クワとヤマモモとグミのジャムを作りました。まぜたり色を見て分けたりしたのが楽しかったです。自分で作ったジャムは、いつものジャムよりおいしく感じました。

徳島県の木であるヤマモモのジャムを初めて食べました。生のヤマモモはあまずっぱい味でしたが、ジャムにすると一層あまくなりました。クレープにぬって生クリームといっしょに食べると、お店で買うクレープよりおいしかったです。

●新浜千春さん

「ジャムなんてちょっと手間がかかるように思うし、一品にならないわ」って思っていましたが、大勢で作るとあまいにおいとともに満足のいく出来栄えで、他のグループが作ったジャムも試食することができて、手作りの味を普段と違って楽しめました。

●松本政一さん

家族で初めてジャム作りに挑戦しました。実際にヤマモモの実を採集し、クワやグミ、アンズのジャムも作ることができました。子どもたちにとって初めて見る木の実ばかりで、出来上がる工程をとても楽しんでくれていました。自然の味はとてもおいしかったです。

教えていただいた講師やスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

うまくできるかな？

友の会行事報告

キャンプで自然体験

○**日　時**　7月26日（土）～27日（日）

○**場　所**　徳島県立佐那河内
いきものふれあいの里

○**担　当**　南部洋子・松家京子（友の会役員）
小川　誠・辻野泰之（博物館学芸員）
鉄谷雅史（博物館主任）

○**協力者**　大原賢二・阿部末美（友の会会員）

○**参加者**　29名

7月26日（土）は、いきものふれあいの里キャンプ場に集合して、昆虫採集や植物観察をした後、火おこし体験をしました。夜はライトトラップ（光で昆虫を集める道具）を使って昆虫採集をしました。

翌27日（日）は、旭ヶ丸に登って大川原高原の風景を楽しみ、下山したところで解散となりました。

2日とも天候に恵まれてうだるような暑さでしたが、充実した自然体験になりました。

（鉄谷雅史：博物館主任）

協力者の感想

●大原賢二さん

①昼間の観察

モンキアゲハやジャコウアゲハの産卵などが見られました。キャンプ場下の池の周りには、「この公園の計画時に、オオムラサキを増やしたい」ということで、幼虫の食草であるエノキと、成虫の餌となり、カブトムシやクワガタムシなども集まる樹液の出るクヌギを植栽する計画で、それに合わせて植えられていました。

クヌギはまだそれほど太くなく、あまりカブトムシやクワガタムシにも効き目はないかと思いましたが、そのクヌギの根際で辻野さんがミヤマクワガタのかなり大きな個体を発見、それを見習って子どもたちが探しはじめ、なんと5～6匹のミヤマクワガタのオスとメスが見つかりました。また、すぐ横でこの日一番大きなミヤマクワガタのオスとメスが見つかりましたが、それはカラスか何かに腹部と胸部の一部が食べられていて、頭と前の胸だけがまだ動いているものでした。木の上の方にいて、鳥に見つかったもののようです。クワガタムシにもこんな敵がいるのですね。

池の周りではイトトンボの仲間や、脚の白い部分が非常にきれいなモノサシトンボも見られました。この池は、アメンボがまったくいないのが不思議でした。道路に出ると、キチョウが数頭飛んでいました。

②夜のライトトラップ

初めはなかなか虫が飛んでこなくて、これまでの友の会行事でライトトラップをやってもなかなかたくさんの昆虫が来たことがなく、またまた失敗かと思うほどでしたが、次第にカメムシを中心に集まり始めました。ガも多くはありませんでしたが、メイガの仲間やヤガ、シャクガの仲間なども少しずつ増えていきました。8時頃からはスズメガなども来始

め、トビイロスズメやホソバスズメ等が来ました。また南方系のガであるクロメンガタスズメも1匹飛来し、この10年くらいで定着してしまったこのガも、標高650m程あるこのキャンプ場まで飛来するとは思いませんでしたので、非常に驚きました。また、10時前になるとオオミズアオが複数飛来し、幕にばたばたと当たってはどこかへ飛んでいくという特徴的な動きで、皆さんもその大きさや動きに驚いておられました。他には、ゴマフボクトウなども来ていました。

参加者の皆さん

変わったものとしては、ヒメカマキリモドキやウスバカゲロウの仲間、ヒグラシ、ニイニイゼミなどのセミ類、トビケラやカワゲラ、カゲロウなどの水生昆虫も来ていました。甲虫では、アオスジカミキリ、ツシマムナクボカミキリ、クロカミキリ、ノコギリカミキリ、コガネムシの仲間では、コフキコガネやセマダラコガネ、そしてミヤマクワガタとコクワガタなども飛来しました。

たくさん来たのはヒメホシカメムシなどのカメムシ類でしたが、オオクモヘリカメムシを捕まえては、「青リンゴの香りだ」と喜んでいるご家族もおられ、こちらがびっくりしました。

結果的には、これまで行ってきた博物館行事や友の会行事のライトトラップでの観察会としては、虫の個体数として一番たくさん来てくれて、成功だったと思っています。

ひろば

●篠原瑞稀（しのはらみずき）さん

いろいろな虫や植物が見られてうれしかったし、すごく勉強になりました。

火おこしはなかなか火がつかなくて、すごくつかれました。でも、ふだん体験できないことができて、すごく楽しかったです。来年もぜひ参加してみたいです。

●山本真綺（やまもとまあや）さん

この前は、キャンプでいろいろ教えてくれて、ありがとうございました。とくに、夜のこん虫さいしゅうがたのしかったです。たくさんの虫がきて、いっぱいとれました。とてもうれしかったです。

これからも、いろんなイベントにさんかして、生きもののことをいっぱいしりたいです。

●小方惟心（おがたいしん）さん

ぼくは、ミヤマクワガタに出会いました。オス2匹、メス2匹の合計4匹も。夜はライトトラップがありました。カメムシ、ガ、セミ、ミヤマクワガタのメス、ハンミョウがいっぱい飛んで来てうれしかったです。火おこしは最後まで火がつかなかったけど、がんばりました。旭ヶ丸で「シカが食べた跡だよ」と教えてくれた所を見ておどろきました。

とても楽しかったので、次回もぜったい参加したいです。ありがとうございました。

●蘆田悠日（あしだゆうひ）さん

コクワガタ5匹とミヤマクワガタ1匹がとれました。ミヤマクワガタは、トラップにきました。クワガタをたくさんとったので、おせわがたいへんだなあと思いました。

らい年もこのイベントにさんかしたいなあと思っています。またクワガタをたくさんとりたいと思います。

●藤居直子さん

火おこし体験がおもしろかったです。種火ができてもガマの穂の中で消えてしまうことが何回もありましたが、種火を入れたガマを持ち上げると勢いよく燃えたので、通気のよい金ざるでやればよかったのかもしれません。小学生はお手上げで、火をおこすのが大変だとわかる体験でした。

池の周りの散策や登山も、解説してもらうとじっくり見られておもしろかったです。食べられる植物の名前の由来、腹のないクワガタ、クワガタの胸部が三つに分かれていることなどがおもしろかったです。

子どもは野ウサギを見つけてさわったのが嬉しかったようです。星空もきれいで、星座表を持って行けばよかったと思いました。

友の会行事報告

板野周辺を歩こう

○**日　時**　9月28日（日）
○**場　所**　板野町
○**担　当**　大杉洋子（友の会役員）
松永友和（博物館学芸員）
鉄谷雅史（博物館主任）
○**協力者**　滝よし子（友の会会員）
○**参加者**　11名

9月28日（日）、11名の参加者が板野町の宝厳寺に集合し、まずは友の会会員の滝よし子さんから「阿波の俳人会図」の解説をしていただきました。昼食後は、丁石や回国塔などを見学しながら、大日寺へ移動しました。そこでは、滝さんからの心温まるお接待で疲れを癒すことができました。最後は地蔵寺へ移動して五百羅漢を拝観し、充実した一日を過ごすことができました。

最後になりましたが、今回の行事を実施するに当たり、多大なるご協力を賜りました宝厳寺、大日寺、地蔵寺の皆様に、厚くお礼申し上げます。

（鉄谷雅史：博物館主任）

●天羽祥仁さん

先日は友の会行事に参加させていただき、ありがとうございました。普段は目にすることのないものを、詳しい解説付きでたくさん見ることができました。

何気ない田舎道が、数々の石仏や石造物に囲まれ、昔は本街道であったことに時の流れを感じました。天気もよくて、和気あいあいと楽しい一日を過ごさせてもらいました。

滝さん、事務局や参加者の皆様に感謝いたします。またこんな企画があれば参加したいと思います。

●大杉洋子さん

秋晴れの一日、昔から徳島の文化をリードしてきた板野町を訪ねました。札所の丁石を発掘し、誰でもわかるように並べてくださった滝様、本当にありがとうございました。地蔵寺に阿波水軍の森一族のお墓があることにびっくりいたしました。

「今昔　藍大尽の　畑に猪」

●南部洋子さん

板野町高樹にある宝厳寺では、アワーミュージアム第53号で紹介された「阿波の俳人会図」をはじめ、著名な絵師による作品が多数所蔵されており、見学の時間が足りないほどでした。

5番札所地蔵寺から4番札所大日寺までの遍路道には、丁石や回国塔などの石造物が多数あり、今回ご案内いただいた滝よし子さんが、過去にこれらを丹念に調べられていたので、興味深い詳細なお話をしていただき、有意義な時間を過ごすことができました。

●髙田千代恵さん

宝厳寺にある「阿波の俳人会図」を見たくて参加しました。そこには6人の男性が座り、話をしているような、悩んでいるような…。中央のひげ面で裃を着た武士は、何とも優しい顔。他の人物も、丸っこい温かみがある顔。

滝さんによると、この人たちは俳句仲間で句会をしており、そのときの句も書き込まれているそうです。その中の一人が書いた随筆もあって、その内容がユニークで、杖に名前を付けて大事にしているなんて楽しい。

難しい文面を解説してくださった滝さんに頭が下がりました。

●篠原瑞稀さん

板野町に行って一番心に残ったのは、宝厳寺にある雪舟の水墨画や歌川広重の東海道五十三次の絵です。

国宝級のものを見ることができたので、すごくうれしかったです。また見に行きたいです。徳島県内の寺社をもっと知りたいです。

●阿部萬里子さん

宝厳寺の宝物館は素晴らしい宝の山で、本当に驚くばかりでした。もっとじっくり眺めてみたい気分になりました。

丁石をたどりながら、「昔の人たちがどんな願いをもって歩いたのだろうか」と思いを巡らしながら回りました。また、心温まるお接待を受け、心地よい一日でした。

地蔵寺のご住職とともに

友の会行事報告

秋の山を歩こう

○日　時　10 月 18 日（土）

○場　所　佐那河内村・上勝町

○担　当　伊勢ひとみ・徳野壽治（友の会役員）
茨木　靖（博物館学芸員）
鉄谷雅史（博物館主任）

○参加者　23 名

10 月 18 日（土）、絶好の晴天に恵まれて、23 名の参加者が佐那河内村の大川原高原を出発しました。往路では、行成さんから昆虫や植物に関する解説と、伊勢さんから峠道に関する解説がありました。送電線の鉄塔の下で子どもさんたちが「ヤッホー！」と叫ぶと、山びこが周囲に美しく響き渡りました。高鉾山では、素晴らしい眺めを見ながら昼食をおいしくいただきました。復路は往路と違う道をたどりながら初夏のキイチゴに思いを馳せ、全員無事に大川原高原に戻ることができました。

（鉄谷雅史：博物館主任）

ものしり

●篠原瑞稀さん

植物や歴史のことがよくわかりました。長い道のりを歩いてつかれたけど、すごく楽しかったです。知らないことや見たことがないものに出会えてよかったです。また同じイベントがあったら、ぜひ参加したいです。

●小方謙二さん

先日は、大変お世話になりました。
ただ山を歩くだけでなく、木々の名称や特徴などを教えていただきながら、思ったよりも長い道のりを短く感じ、楽しみながら歩くことができました。
また次回もよろしくお願いいたします。

高鉾山の山頂にて

アワーミュージアム　第 55 号

2014 年 12 月 25 日発行：徳島県立博物館友の会
〒 770-8070　徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636　FAX 088-668-7197
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp